



「北陸アルミ水素将来ビジョン検討会議」が最終回

北陸地区

廃アルミで「水素社会」実現へ

「検討会議」が将来ビジョン

アルミ系廃棄物から水素製造

家庭やオフィスの電源に

廃アルミを有効活用した水素社会実現へのビジョンをつくる「北陸アルミ水素将来ビジョン検討会議」（座長

川口清司富山大学大学院理工学研究部教授）の最終回が10月26日、金沢市内の石川県女性センターにおいて開催され、北陸3県の関連企業や自治体から約60人が参集した。

同会議は8月末から計3回開催し、検討を重ねてきた。ビジョンでは、アルミ産業が集積する北陸の特性を生

かし、地域で発生するアルミ系廃棄物で水素を製造し、家庭やオフィスの電源、非常用電源として利用する。水素発生で副生する水酸化アルミニウムは凝集剤やアルミ精錬原料として工業利用するなど、エネルギーの地産地消、資源循環サイクルの確立を目指す。

川口座長は「アルミをエネルギーキャリアとすることで、水素の貯蔵・輸送インフラが不要となり、コストを低減できる。今後は産学官民の協力が必須。水素社会実現に向けビジョンを広く周知していきたい」と語った。会議では、水素社会実現に向けた国内外的取り組みに関する講演のほか、北陸3県の運輸、工作機械、繊維加工企業による水素関連事業の発表も行われた。